

令和2年度 環境審議会第1回専門部会（低炭素社会） 会議録

【日 時】 令和2年7月3日（金） 午前10時～11時30分

【場 所】 豊田市役所 東庁舎 東73会議室

【出席者】

部会長 杉山 範子（名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的
共発展教育研究センター 特任准教授）
梅村 豊作（市民公募）
近藤 琢也（豊田商工会議所第2工業部会 副部会長）
近藤 恭弘（豊田商工会議所第1工業部会 部会長）
杉山 佐由紀（NPO法人とよたエコ人プロジェクト）
林 基生（気象庁名古屋地方気象台）
（事務局）環境政策課 塩谷課長、宇佐美副課長（ほか）
未来都市推進課 堂山担当長

【欠席者】 なし

【傍聴人】 なし

【次 第】 1 環境政策課長挨拶
2 部会長挨拶
3 委員紹介
4 議題
・環境基本計画の低炭素社会における前年度取組について（協議）
5 その他

- 1 環境政策課長挨拶
- 2 部会長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議題
 - ・環境基本計画の低炭素社会における前年度取組について（協議）

部会長	事務局から説明をお願いします。
事務局	（豊田市環境基本計画進捗管理シート等配布資料説明） 【施策の柱 1.2】の2つの施策を除き、施策の進捗状況は順調と評価した。
部会長	説明について、各委員から質問・意見ををお願いします。
委員	街区スマート化が遅れている。ある程度の規模がないと事業者も手を挙げないとのことだが、今後の方向性では、事業者が実施しない場合、行政として他にどんな方法で実施できるか代替案はあるか。事業者に一任している状態では、計画から遅れたままになる。
事務局	街区のスマート化となると広い土地が必要で、現状として大規模で実施するのは難しくなっている。 まずは個々の住宅に対して環境負荷の低いスマートハウス化する取組を進めるが、比較的規模の大きい街区のスマート化については、事業者にヒアリングしながら、動向を把握したい。
委員	街区と個々の住宅の施策を分ける必要があるか。 一つひとつの家が集まって街・コミュニティになる。 評価の仕方を工夫するなど、両方の施策を1つにまとめて考えていく方が施策の効果が評価しやすいのでは。
事務局	スマートハウス化という意味では同じ考え方のもとに進めている。面で捉えるか、個々で捉えるかの違いがある。施策として分けて評価しても良いのかと思う。中間見直しの中で検討したい。
委員	面か個々かだけではなく、街区ではインフラ整備も含んでいるのでは。
部会長	街区である程度の規模を持つと、電気だけでなく熱や情報などインフラをまとめて相互に融通しあうことができるなど考えられる。あえて戸建て住宅と施策を分けているのでは。

事務局	ももとはエリアの中で電気を融通し合うなども目的の一つとしてあった。 しかしながら、エリアの中でのマネジメントについて、具体的な取組が進んでいない状況もある。
事務局	エネルギーマネジメントについては、現在進めている VPP 実証などの取組が、街区のスマート化につながっていくと考えている。
事務局	民間事業者が全く整備しないという状況ではない。 例えば、県内の大学施設跡地がスマートタウン化しようとしている動きもある。現状、豊田市内では事業者とマッチングする開発適地がないということである。
部会長	必ずしも街区でないといけなのか。ある程度のまとまったエリアで何かできるのであれば、それも含めて検討すればいいのでは。
委員	【1.2】「街区のスマート化」がインフラ整備だとすると、【1.1】「エネルギーの地産地消の仕組みづくり」とは概念は分けて考えているのか。 インフラとスマート化を分けた考え方があるのか。
事務局	策定当時は、街区という規模でマネジメントすることが有効として計画を立てている。2011年東山・高橋地区、2016年柿本町でスマートタウンを整備したという実績がある。 【1.1】の施策については、市域全体で取り組むこととして、例えば、VPP がその一つになる。
事務局	【1.2】は民生・交通の部門のCO ₂ を減らすための施策、【1.1】は各部門横断的なエネルギーの施策という立て付けとなっている。
委員	街区のスマート化とは、インフラとして共有設備を設けるなど、個々の住宅が連携してできるようなものか。
部会長	過去のスマートタウンでは、個々のスマートハウスの連携や新しいインフラ設備は導入されているのか。
事務局	東山・高橋地区では、各家庭で電力を融通し合える取組をシュミレーションとして実施した。
事務局	実際の電気の融通はしておらず、情報を集約し、仮想の中で融通したとデータ上処理するもの。
部会長	実際に電力需要を抑えることにつながったのか。
事務局	個々の住宅では一般住宅に比べ平均で50%削減という結果が

	出ており、電力需要を抑えることにつながった。
委員	シュミレーションして、CO ₂ が抑えられているという状況がわからない。あくまでシュミレーションなので CO ₂ は減っていないのでは。
事務局	各家庭には HEMS がついていて、電力使用についての推奨などの情報が表示される。
事務局	天候予測等に基づいて住民が行動するなど行動変容につながった。
委員	パソコンの低電力モードなどのように自動的にできるものでは。CO ₂ が減ったというのは節電の行動が進んだことによるものか。
事務局	節電行動の効果だと思う。
事務局	VPP では将来的には自動制御ができるよう実証実験を進めている。将来的には産業分野と連携するのが効果的だと思っている。
委員	ピークカットをするのか。
事務局	ピークカットを電力使用者にお願いするもの。
部会長	街区のスマート化の施策については、新たに開発するものだけではなく、その他できることはあるのか。
事務局	今後は VPP のような施策を進めていく。
委員	スマートハウス化というのは既存の住宅ではできるのか。既存の住宅には関係ない話として意識が向かない住民もいるのではないか。既存住宅でもスマートハウス化ができることがわかれば、意識が変わるのでは。
事務局	既存住宅でも後付けで、太陽光、HEMS、蓄電池を付けられればスマートハウス化になる。 ただ屋根の荷重、傾斜、日当たりなどの問題で、太陽光を載せることができない住宅もある。
部会長	エコ住宅改修も含む。スマートハウスの定義が曖昧かもしれないが、例えば窓の改修でも、光熱費が抑えられる。
事務局	スマートハウスだけがエコな家というわけではない。太陽光を載せるとすると、売電収入などに意識が及ぶ。収入を考えるとコスト面で見送ってしまう家庭もあると思う。
委員	卒 FIT の動向はどのようになっているか。
事務局	10年前に太陽光設備を導入して固定価格買取制度の終了を迎えている家庭が増えている。現在では発電した蓄電池を設置して電気を売らずに蓄えるという考え方になっている。

部会長	<p>スマートハウスは、新築を建てる人、初期費用が払える人、蓄電池が買える人など、一部の人しか得られない物になっている。</p> <p>古い家で、初期費用がないけど、太陽光は設置したい人、低所得者、今まで踏み出せなかった人に手を差し伸べる施策を考えて欲しい。</p>
事務局	<p>そこができれば広がるが、現状としては難しい。</p>
委員	<p>スマートタウンで発電・蓄電などを融通できる考え方があるといい。</p>
委員	<p>スマートハウス化は費用が掛かる。費用回収が難しい。</p> <p>事業者としても支援できるものがあればと思っている。</p>
部会長	<p>議論を整理すると、街区のスマート化の遅れについては待っているだけでなく、何か施策を考えられないかというもの。</p> <p>戸建て住宅ではスマートハウスの普及促進、エリアという考え方では VPP 実証、スマートタウンの整備をやってきた。今後、市の施策を考えたときに、事業者の進出以外に何か市としてできることがないか。初期投資がなくてもできるとか、地域、エリアでできるものはないかなど。</p> <p>過去の海外の事例では、衛星画像で建物の屋根から熱がどれだけ逃げているのかという調査を実施し、熱が逃げている住宅に対して、改修補助を出す施策がある。</p> <p>低所得者にはエネルギーの支援として太陽光パネルを優先的に設置するなど、単なる助成金ではない支援方法も検討できる。</p> <p>何か良いアイデアがあれば、また考えて欲しい</p>
委員	<p>【1.2】「環境配慮行動の促進」の箇所、コロナで新しい生活様式とエコというのがないかと考えている。</p> <p>食品ロス削減については外食での食べきりに加えて、コロナ禍で普及したテイクアウトを対象にしていく仕組みがあればいいと思う。</p>
事務局	<p>新しい生活様式×エコで食品ロス削減というテーマではいろいろなやり方がある。</p> <p>ステイホームをする一方で、外出して経済を回さなくてはいけない。それぞれ否定できない。テイクアウトだと容器のごみが増えるなどの問題も一方で出てくる。</p> <p>新しい生活様式と環境分野はトータルで考えていく必要がある。</p> <p>アイデアなど聞いて複合的にやっていきたい。</p>
部会長	<p>最後に、委員からひと言ずつ意見や感想などを聞きたい</p>

委員	<p>コロナの影響で指標を見直さなくてはいけないと感じている。人が集まるのが前提となっている事業は進まない、見直す時期に来ているのでは。</p>
部会長	<p>現状社会が変わってしまっている状態。すぐに数値を変えることは難しいが、どれを見直すのかなど分類した方がいい。</p>
委員	<p>進捗状況には「遅れ」と「順調」しかないが、【1.2】「次世代自動車の普及促進」では目標値に対して、策定時の4年間でも7%しか増えていないが、本当に「順調」と言っているのか。施策の方向性が的を射ていないのではないかと心配している。コロナの影響で目標値を見直さなくてはいけないことに合わせ、新たに必要な取組や重点取組についてもう少し深い議論が必要。</p>
事務局	<p>次世代自動車の普及率の話では、家庭用だけでみると、30%ほどに上がっている。見せ方の違いもある。コロナの関係で事業ができていない。一方で新しい生活様式に合わせた事業を入れ込む必要があると思っている。大きく数値の見直しを考えていきたい。</p>
委員	<p>基準をその時々でいいようにころころ変更してしまうのはどうかという側面もある。変えるのであれば、定義づけをしっかりとする必要がある。目標があまりにもぼやけている。評価もしにくい。内容をどうするかは軸足を持った方がいい。産業の低炭素化の促進が一番大きなウェイトを占めるのでは。大手は ESG 経営ができるが、中小企業が取り組むというのは難しい。このような中小企業の支援の方法で、実際に効果があるような施策を追加、検討する必要があると考えている。</p>
部会長	<p>重要な指摘である。大きな社会の変革がある中で、中小企業をどうサポートしていくか検討していく必要がある。</p>
委員	<p>【1.5】気候変動に関する普及啓発は、直接 CO₂ を減らすという低炭素の数字ではなかなか表せないが、様々な取組に影響する。人工排出の CO₂ が温暖化を進めているのは確かで、既にある程度市民の理解は進んでいるが、温暖化は理解していくのが難しい。一昨年のような猛暑だけでなく昨日今日が少し涼しく過ごしやすいなどといったすべての気象現象が温暖化の進行の中で起きるので実感しにくい。炭素排出量をゼロにしないと温暖化は確実に進む。各取組だけでは十分ではなく、意識を高める意味でも普及啓発の取組を大事に考えていただきたいと思っている。</p>

部会長	<p>重要な意見をいただいた。認知度を上げるという目標だけではとても駄目。</p> <p>今後、気候変動への適応に関する計画を策定するにあたって、適応策の新たな目標・指標を作っていく予定か。スケジュールが決まったら審議会の場でも話してほしい。</p>
事務局	<p>目標についてはうまく立てられるかを心配しているが、計画策定の進捗については、適宜説明する。</p>
部会長	<p>適応に関しては、防災対策に次世代自動車を使うなども豊田市ならではのと思うが、このような取組をうまく使って、進めて欲しい。</p>
委員	<p>エコットは市民に啓発し、取り組んでもらう施設であるため、伝えて、気持ちが進むような活動をしていく必要があると思った。</p>
部会長	<p>本日は、コロナの影響もあり、考え方を変えていく必要があるというような意見が出た。気候変動に関する考え方も変わってきている。</p> <p>計画期間が長いですが、社会の変化も入れながら、審議会で議論し、意見を反映していただければと思う。</p>

5 その他

- ・環境基本計画中間見直しに向けたスケジュール（報告）
（事務局より報告）